

2020（令和2）年11月3日

原子力空母母港化の是非を問う住民投票を成功させる会 主催

市民シンポジウム

米軍コロナ感染者問題と 原子力空母

米海軍横須賀基地関係者の
コロナウイルス感染者情報は、
今年4月に非公表になりましたが、7月にやっと公表される
ようになり、8月には感染者が
急増しました。

原子力空母ルーズベルトは、
3月にコロナ感染者が艦内で急
増して、最終的に1248名と
なり、乗組員をグアムから沖縄
と厚木に空輸する計画も検討
されてきました。

市民の安全のためにも、今後
原子力空母レーガンの帰港時
や、12月以降の原子炉定期修理
の米国人修理工の大量入国時
に、感染拡大防止が徹底される
かが問題です。

「成功させる会」共同代表・呉
東弁護士と呼吸器内科・春田医
師をパネラーとして、シンポ
「米軍コロナ感染者問題と原子
力空母」を開催します。ルーズ
ベルトの調査報告書も紹介し、
米軍基地や原子力空母のコー
ナ感染問題を検証します。
奮ってご参加下さい。



11/3 祝

入場無料
予約不要

午後1時開場、1時半開始

ルーズベルトの調査報告書

第1部：

3月に発生した
空母「セオドア・ルーズベルト」での集団感染に関しての
米報告書について。

「コロナ感染に関する
組織的対応についての米海軍司令部調査報告書」

第2部：

現在も続く、
米軍関係者のコロナチェック体制の問題について

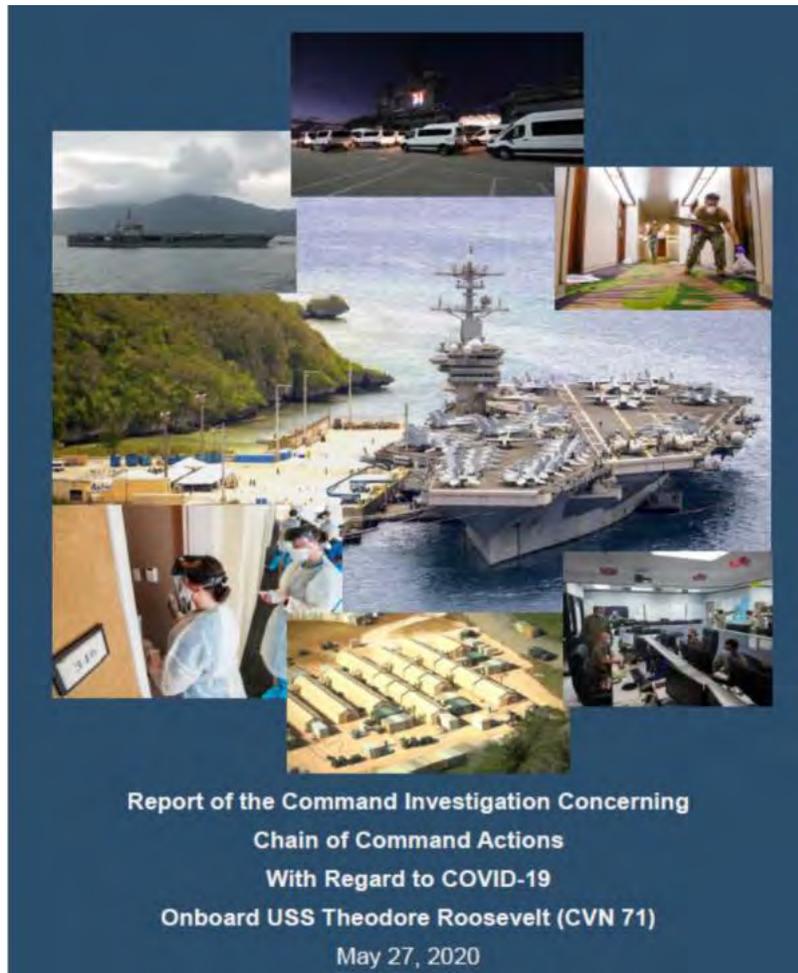
パネラー：

呉東正彦（弁護士・当会共同代表）

春田明郎（医師・横須賀中央診療所）

第1部 空母「セオドア・ルーズベルト」 コロナ感染に関する組織的対応についての 米海軍司令部調査報告書について

< 調査の結論と 明らかになった事実 >



DEPARTMENT OF THE NAVY
CHIEF OF NAVAL OPERATIONS
2000 NAVY PENTAGON
WASHINGTON DC 20350-2000

5800
Ser 100002
19 Jun 20

FINAL ENDORSEMENT

From: Chief of Naval Operations
To: File

Subj: COMMAND INVESTIGATION CONCERNING CHAIN OF COMMAND ACTIONS
WITH REGARD TO COVID-19 ONBOARD USS THEODORE ROOSEVELT
(CVN 71)

Ref: (a) ADM R. Burke, USN ltr 5800 Ser N09D/20U100825 of 27 May 20 (w/encl)

I reviewed reference (a), the Command Investigation, and I approve the report except as noted herein.

米海軍による調査の結論

(経緯：空母ルーズベルトは、母港の米サンディエゴを1月17日に出港し、3月5日にベトナムのダナンに入港し9日出港。その後、洋上で感染者発覚。3月末にグアムへ寄港。)

- 1) ダナン寄港の判断は妥当。しかし感染の原因はダナン寄港と推測される。
- 2) 艦長のダナン出港後3月23日までの措置は妥当だったが、24日以降の措置は不適切。
- 3) 艦長のグアム寄港後の3月29日の船内隔離区域からの乗組員の解放の措置が感染拡大に繋がった。
- 4) 検査体制、隔離施設等の問題による乗組員の下船の遅れが感染拡大に繋がった。
- 5) 最初に第7艦隊司令官が、グアムのホテル収容案よりも、沖縄に移送する案を優先的に検討したことが、艦長らに不信感を発生させ、行動を遅らせた。
- 6) 艦長のメールは不適切かつ効果なく、有害であった。

○ 勧告

クロージャー艦長 艦長に復職させず。事績は今後肯定的に扱われるべき。

当時の状況：米海軍による調査報告書より



*Figure 2: 200521-N-SH180-3010 PHILIPPINE SEA (May 21, 2020) - U.S. Sailors sit in a crew lounge area that was one of the first quarantine spaces aboard USS Theodore Roosevelt (CVN 71).
(U.S. Navy photo by Mass Communication Specialist 3rd Class Zachary Wheeler)*

当時の状況：米海軍による調査報告書より



Figure 3. 2200521-N-SH180-3014 PHILIPINE SEA (May 21, 2020) – A reactor berthing compartment that was one of the first quarantine spaces aboard USS Theodore Roosevelt (CVN 71). (U.S. Navy photo by Mass Communication Specialist 3rd Class Zachary Wheeler)

当時の状況：米海軍による調査報告書より



Figure 4. Kilo Wharf, Naval Base Guam, laydown for TR's arrival on March 27, 2020.

米海軍による調査報告書より

ROUTE KILO TO ISOLATION HOMES



Figure 8: Route to Isolation Homes¹⁶⁶

米海軍による調査報告書より



Figure 13: Guam Expeditionary Medical Facility (EMF)

米海軍による調査報告書より



Figure 14: Guam EMF

米海軍による調査報告書より



Figure 15: USS Theodore Roosevelt (CVN 71) Sailors quarantined in gym (US Navy Photo)

米海軍による調査報告書より



Figure 16: USS Theodore Roosevelt (CVN 71) Sailors quarantined in facility on Guam (US Navy Photo)

米海軍による調査報告書より

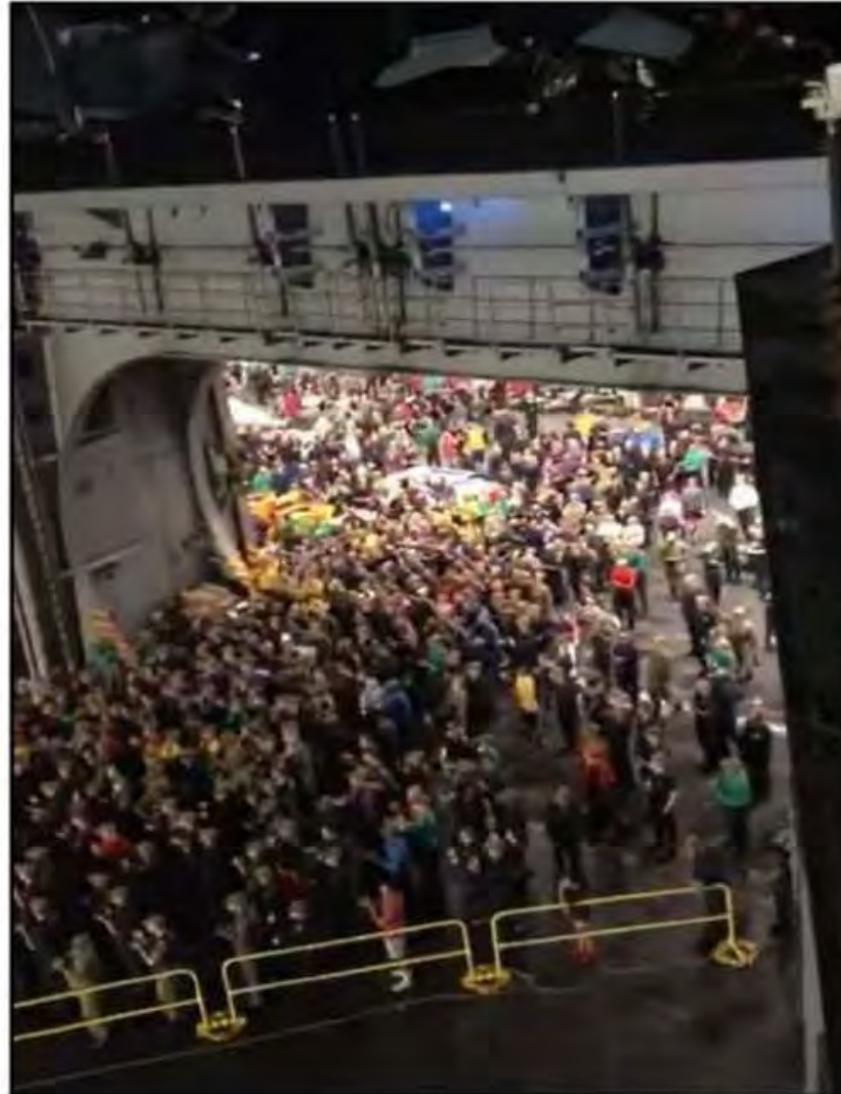


Figure 18. TR crew cheers former TR CO as he departs the ship after being relieved of command on April 3, 2020
(<https://nypost.com/2020/04/03/capt-brett-crozier-gets-dramatic-send-off-from-sailors/>)

明らかにになった事実①

1) 1月17日 原子力空母ルーズベルト サンディエゴ出航

2月7日 グアム入港

2月25日 ベトナム国内では16名の感染者。全てが退院した。

CDC在ベトナム担当者に照会。

★2月に、第7艦隊は、艦船でコロナ感染者が大量発生した場合の寄港地として、

ホワイトビーチが最適だが、政治的に難しい。

横須賀は、収容できる施設が限られている。

グアムと想定したが、政治的問題は残る。

★3月4日インド洋司令部はベトナム黄色。国務省はレベル1。ベトナム渡航制限なし

明らかにになった事実②

2) 3月5日ダナン入港、

★ルーズベルトとバンカーヒルの乗組員はホテルに宿泊。

(訪問はホテルと制限された場所のみ。)

ダナンでの交流行事

7日ベトナム人記者のルーズベルト乗艦訪問。(5・6日はバンカーヒル)

★3月8日、感染者の出たヴァンダホテルに宿泊した37名、訪問した2名をチェックし、隔離する。

___ 3月9日ダナン出航

明らかにになった事実③

3) 9日から23日までにクラーク基地からの航空便で29人が到着したが、検査で陰性

★（後で4人が陽性となったが、調査で感染源とはなっていない。）

★出港後食堂での食事供給の仕方は一部セルフサービス中止。

ジム、売店、図書室、床屋、教会は普通のまま。

社会距離はとらず、とることは不可能と考える。

3月14日 隔離した39人は全て陰性

3月17日 艦長グアム上陸は3ケース 通常、基地内、接岸+制限区域のみ。

3月22日 39人は陰性、隔離から解放される。

明らかにになった事実④

4) ★ 3月9日から23日までに9名の有症状者があった。

3月24日以前に、3名の乗組員が、味覚臭覚障害のみ1週間と申告、不確かと判断。

3月24日、3名が陽性の結果。2名が第11航空部隊、1名が原子炉部門。

39名の隔離された乗組員との濃厚接触者ではない。

USAトゥデイ 8名陽性と報道。

4月3日グアム寄港の予定を、全速力で27日到着を目指す。

★ダイヤモンドプリンセス等のクルーズ船との違いを分析 個室大部屋、年齢構成

明らかにになった事実⑤

3月25日、ヘリで陽性の4名を陸上に移送。

船内一部施設閉鎖。しかし社会的距離はとられず。→不適切。

- ★ グアムに4000室が個人の2週間隔離のために必要と第7艦隊に伝えるが、接岸のみなので、できないとの回答を受ける。

3月26日 陽性者が8名から33名に。

基地司令官、第9空母攻撃部隊司令官、陽性者の全員と、艦の作戦行動に必要な原子炉管
理要員20名も、真先に下船、隔離させる方針。

- ★ 艦長はグアム到着後、乗組員を全員下船させるとメール。

太平洋艦隊は、乗組員を全員検査する計画。

- ☆ 第3遠征軍（沖縄海兵隊）が、第7艦隊に対して、

沖縄の5000室をルーズベルトの隔離室に提供すると提案する。

明らかにになった事実⑥

5) 3月27日、グアムに入港。36名の陽性者が艦内に。

☆ 3月27日までに、横須賀のロナルドレーガンでは3名の陽性者が発生していた。

感染者、有症状者、原子炉要員等264名がまず下船して、隔離室に移動。

★ 他は計画なし。第7艦隊医官は、第9空母司令官に下船前全員検査を命令。

第7艦隊は、できるだけ速く、多くの乗組員を下船させ、全員を検査すべき。あるいは

できるだけ早く全員を検査して、下船させるべき。

太平洋艦隊は検査を、第7艦隊は下船を、ルーズベルト艦長は個室を、とバラバラ。

★隔離スペースと、検査体制の不足が、非感染乗組員の下船を遅らせることとなった。

明らかにになった事実⑦

6) 3月28日 46名が陽性。一部船外の臨時野外宿舎に、船の一部が隔離スペースに
乗組員が下船すると、居室と食料の問題が起こった。

第9空母司令官は、まず下船させ、その後に検査の方針決定。

★ コロナ検査キットが到着したが、12-14日の準備が要求されていた。

(バッチテストの不完全性)

艦長は、食料が確保されるまでは下船させるべきではない。

ホテル個室に隔離することが最も迅速で効果的な方法と考える。4500の個室必要第7艦隊は下船前に検査が必要と説明。検査可能数。理解に混乱。

2日間、何が起きているのか、きちんと認識していなかった。

☆第7艦隊司令官は乗組員を沖縄に空輸する計画を命令し、第3遠征軍に、普天間基地 と、キャンプバトラの宿舎を空けるように求めた。

明らかになった事実⑧

7) 3月29日 53名が陽性。ルーズベルト医官がコロナに敗北とメール。

★ 船内には4389名が残る。

艦長1000名以上が艦内の後部隔離スペースにいるのは非効果的で隔離を停止する

太平洋艦隊と第7艦隊には知らされず。

→感染拡大に繋がった。

☆第9空母司令官は、グアムホテル利用を提案するが、第7艦隊は沖縄案を待てと回答

太平洋艦隊司令部は、9時間の空輸による感染拡大と日本政府との摩擦を原因に拒絶

★グアムホテルは すでに535室入居、1150室が入居可能。

(基地内施設は隔離が不十分でガイダンスを充足していない。)

明らかにになった事実⑨

8) 3月30日

★・ 艦長が上層部にメール 全ての乗組員に、速やかに、隔離室を。

・ 原子炉部門長が、艦外の施設、部門に懸念を表明。

→サンフランシスコ・クロニクルの記者3月31日の記事を、4月1日0400に発表

9) 3月31日

★・ 医療スタッフが、下船させるべきと、多数関係者にメール

4500のベッドが必要。 (50名の死者の可能性。)

太平洋艦隊がグアム政府とホテル交渉中であった。

地元団体が、海軍感染者を基地内に止めるよう、知事に要請。

明らかにになった事実⑩

10) 4月1日グアム政府知事が、グアム入国を許可。

4月2日 4000室のホテルの使用許可。入居開始。

★→ 下船が遅れたのも、感染拡大に繋がった。

メールは影響を与えなかった。

4月3日 艦長解任される。

乗組員が見送り、SNSにアップされる。

45名の乗組員が、海軍病院で治療を受ける。6名が酸素吸入、

4月13日 1名が死亡。

11) 全艦で1248名が感染した。

(海軍全体で50隻でコロナ感染者が発生。)

私達から見た問題点

- 感染原因、出航時のチェック漏れ。
- 狭く密な艦内での感染の急速な拡大。
- 再寄港時の艦外隔離施設の不足、政治及び軍事との矛盾、混乱による更なる感染の拡大。
その混乱は組織的なもので、
艦長ら現場責任者の責任に帰されるべきではない。
- 感染情報公表、共有の必要性

第2部

米軍関係者のコロナチェック体制の問題について

問題点1：米軍関係感染者情報の公表問題

問題点2：米軍関係者の、民間空港からの入国について
の問題と日本の検疫ルール

問題点3：米軍関係者の、基地内空港、港湾からの入
国についての問題



U.S. FORCES, JAPAN
The Commanders of Peace and Security in the Pacific

Home | Leadership | About USFJ | USFJ Policy | Resources | Media | Contact | U.S. Forces Japan COVID-19

COVID-19

CORONAVIRUS
UPDATES

Current Health Protection Condition: Bravo
Public Health Emergency: Japan-wide
USFJ Active COVID-19 Cases
As of 0900 on October 30, 2020

If you are experiencing COVID-19 symptoms, CALL AHEAD before proceeding to a medical facility

報道記事：7月初旬 沖縄で基地内感染急増

2020年7月14日(火) 新報 沖縄

米軍内コロナ 沖縄苦悩 新たに32人、県に乏しい情報

在沖米海兵隊基地内で、新型コロナウイルスの感染が急速に広がっている。沖縄県は住民への拡大を警戒しているが、米軍から十分な情報が得られず、必要な対策を打てないとして、日本政府に対応を求めている。一方の政府は「日米間の情報共有は出来ている」との立場だ。

▲オピニオン面Ⅱ社説

県は13日午後、普天間飛行場(宜野湾市)で新たに32人の感染が確認されたと発表した。12日には牧港補給地区(浦添市)でも1人が感染し、在沖米海兵隊関係者の感染者は、7日以降で

県に数字を伝えつつも非公表とするよう要求。県が米側と交渉を重ね、米側は県が発表することは妨げないとの立場に転じた。

さらに、県がいま危機感

を募らせているのが、感染拡大防止にすぐに乗り出すために必要な情報が十分に得られていないことだ。県によると、7日の普天間の5人感染は、基地外で

買った物をしていったといった行動履歴が入った。しかし、以降は感染者数と所属基地以外の情報はほぼ入ってきていないという。

県幹部は言う。「多数の感染で米軍自身が情報の整理ができていないのか、整理できていないのに出さないのかはわからない。感染経路や行動履歴などの情報を求めている。重症者が多数出た時に軍の病院が耐えられるのかとの懸念もある」

こうした中、県は独自に情報収集を進め4日の米国の独立記念日前後に感染者が、北谷町のバーやクラブを利用していったとの情報も入手。急ぎよ、飲食店関係者や客にPCR検査を受けるよう呼びかけ、12日、症状の有無にかかわらず130人に検査を実施した。

(藤原慎一、木村司)

在沖米海兵隊基地内、米軍普天間飛行場

沖繩本島
那覇市

在沖米海兵隊におけるコロナの感染状況

- キャンプ・ハンセン 22人 (金武町など)
- 普天間飛行場 71人 (宜野湾市)
- 牧港補給地区 1人 (浦添市)

7月7日以降。沖縄県の発表による

2020年7月16日(木)

米軍基地 見えぬ感染状況 知事、防衛相に公表要請

黒岩知事は15日、沖縄太郎防衛大臣と電話で会談し、米軍基地・普天間の新型コロナウイルス感染者数の公表を強く要請した。沖縄の米軍基地で大規模な感染が判明するなか、神奈川県でも米軍側の対応が明らかにならない事態が続いているためだ。

●厚木
市、大和市)は4月10日、感染者が出たことを明らかにした。施設内で集まる家族が共用使用

●座間
在日米陸軍司令部があるキャンプ座間(座間市、相模原市)では、相模原市が報告されていないという。

●横須賀
動員歴や濃厚接触者の有無は不明だ。

●池子
米軍留守在宅地区(池子市、横須賀市)でも感染者が出ていることが、座間市議会は6月24日、「基地内の感染が基地周辺に影響を及ぼす可能性がある」とは否定できない」として、感染者情報の公表と感染防止対策の強化を国に求める意見書を可決した。

●横須賀基地 顔に催涙スプレー
防衛局、訓練立ち会い調整へ

米海軍横須賀基地(横須賀市)で実施されている日米合同演習の訓練で、催涙スプレーの使用主として訓練の安全管理を確保することは重要とし、訓練への立ち会い

●池子
米軍留守在宅地区(池子市、横須賀市)でも感染者が出ていることが、座間市議会は6月24日、「基地内の感染が基地周辺に影響を及ぼす可能性がある」とは否定できない」として、感染者情報の公表と感染防止対策の強化を国に求める意見書を可決した。

●厚木
市、大和市)は4月10日、感染者が出たことを明らかにした。施設内で集まる家族が共用使用

●座間
在日米陸軍司令部があるキャンプ座間(座間市、相模原市)では、相模原市が報告されていないという。

●横須賀
動員歴や濃厚接触者の有無は不明だ。

●池子
米軍留守在宅地区(池子市、横須賀市)でも感染者が出ていることが、座間市議会は6月24日、「基地内の感染が基地周辺に影響を及ぼす可能性がある」とは否定できない」として、感染者情報の公表と感染防止対策の強化を国に求める意見書を可決した。

●厚木
市、大和市)は4月10日、感染者が出たことを明らかにした。施設内で集まる家族が共用使用

●座間
在日米陸軍司令部があるキャンプ座間(座間市、相模原市)では、相模原市が報告されていないという。

●横須賀
動員歴や濃厚接触者の有無は不明だ。

●池子
米軍留守在宅地区(池子市、横須賀市)でも感染者が出ていることが、座間市議会は6月24日、「基地内の感染が基地周辺に影響を及ぼす可能性がある」とは否定できない」として、感染者情報の公表と感染防止対策の強化を国に求める意見書を可決した。

報道記事： 7月中旬旬・横須賀で、待機中の米軍関係者、 陽性判明

20.7.21 読売新聞
米軍関係者横須賀で陽性
 市「ホテル待機聞いてない」

横須賀市は20日、羽田空港から入国した米海軍横須賀基地（横須賀市）の関係者が、PCR検査の結果を待たずに同市内のホテルに移動し、その後新型コロナウイルスの感染が確認されたと発表した。

市は「米軍が空港から離れた市内のホテルを待機施設とする話は聞いておらず、看過できない」として、上地克明市長は21日、外務省や防衛省などに情報提供の徹底を求める。

外務省から市に入った情報によると、この関係者は19日に民間機で入国し、空港で検査を受けた後、車の両でホテルに移動。同日午後後に陽性が判明し、同基地内に隔離されている。

入国時に検査結果が出るまで、待機場所として検疫所が指定した施設などを利用することは認められていない。移動の際には「公共交通機関の使用禁止」などが条件になっている。

横須賀市は20日、民間機で羽田空港から入国した米海軍関係者1人の新型コロナウイルス感染について発表された。関係者はPCR検査を受けて感染判明の間、市内の民間宿泊施設に滞在していたという。市は「民間の宿泊施設を移動制限施設として利用することは看過できない」とし、上地克明市長が21日に国に要請を行う方針だ。市によると、米軍関係者

検査結果判明前に移動 米海軍関係者 横須賀の宿泊施設滞在

横須賀市は20日、民間機で羽田空港から入国した米海軍関係者1人の新型コロナウイルス感染について発表された。関係者はPCR検査を受けて感染判明の間、市内の民間宿泊施設に滞在していたという。市は「民間の宿泊施設を移動制限施設として利用することは看過できない」とし、上地克明市長が21日に国に要請を行う方針だ。市によると、米軍関係者は19日午前に入国。空港でPCR検査を受け、結果判明前に米軍専用車両で同市内に移動して民間の宿泊施設に滞在していた。同日午後検査結果が判明し、横須賀基地内で医療管理下に置かれたという。

国外から民間機で入国した場合、羽田空港などで日本検疫でPCR検査を受け、結果判明までは検疫所長が指定した施設や空港内スペース、自宅などで待機することが必要。

日米地位協定 改定へ要請書

市民団体、知事に
 提出したのは、自主・平和・民主のための広範な国民連合・神奈川や、厚木基地爆音防止期成同盟、原子

るとは考えられない」として、外務省とのやりとりの中で、横須賀市内の宿泊施設を検査結果判明までの待機場所とすることを、日米政府が了解済み事項としていたことも判明した。市は「この件で情報提供はなかった」とし、21日に上地市長が外務省や防衛省を訪れ、入国の際の検疫ルールの順守や適切な情報提供、日米間で水際対策についての協議などを要請するとい

（尹 貴淑）

報道記事： 7月下旬・米軍 陽性者発表開始

37人を含め、30代以下が52人、約7割を占めた。72人

在日米軍 感染者数を公表

基地ごとの人数、HPで

在日米軍関係者の新型コロナウイルス感染拡大をめぐり、河野太郎防衛相は21日の記者会見で、在日米軍司令部が基地ごとの感染者数を公表することになったと明らかにした。20日にホームページで公開され、感染者数は16日現在で計140人だった。

在日米軍の発表では、140人のうち、普天間飛行場（沖縄県）が64人、キャンプ・ハンセン（同）が51人、横須賀基地（神奈川県）が8人などとなっている。

米国防総省は3月末、作戦上の理由から、米軍基地内での感染情報を公表しないとの指針を決めた。しかし、今月に入り、沖縄県内の米軍基地で新型コロナウイルスの感染が拡大。県が米側と交渉を重ね、米側は県が発表することは妨げないとの立場に転じていた。（寺本大感）

横浜流星さん感染

俳優の横浜流星さん（23）が新型コロナウイルスに感染し、入院した。21日、所属事務所が発表した。

米国防総省は3月末、作

7.22 在日米軍 感染者発表

在日米軍司令部（東京都福生市など）は21日、日本国内の基地ごとの新型コロナウイルス感染者（16日現在）を発表した。

県内では、海軍横須賀基地（横須賀市）8人、同厚木基地（綾瀬市、大和市）2人、陸軍キャンプ座間（相模原市、座間市）1人だった。身分や性別、年齢などは公表せず、感染者の累積数も明らかにしなかった。

17日以降に2人の感染が判明した横須賀基地は、陰性となった人数を差し引き、21日時点の感染者は7人と発表した。いずれも無症状か軽症という。厚木基地の感染者2人はすでに回復し、濃厚接触者の陰性も確認されたという。

報道記事： 8月中旬・米軍関係者の民間空港入国時も 2週間待機。

21 神奈川 湘南 13版 2020年(令和2年)8月20日(木) 厚木

検査結果判明前 米軍、空港待機に 外務省「運用改善」

米軍関係者が羽田空港から入国して新型コロナウイルスの検査を受け、米軍専用車両で横須賀市内の民間ホテルに移動した後に陽性が判明した問題を受けて、外務省は19日、検査結果が出るまで空港に待機させるよう運用を改善したことを明らかにした。

川笠周・日米地位協定室長が同日、横須賀市役所で上地克明市長に説明した。この問題は7月19日に発生した。米海軍関係者が羽田着の国際便で入国し、横須賀市内のホテルへ移動。感染の有無を確認する14日間の移動制限措置（ROM）のためのホテル滞在だったが、ホテルに入った後に陽性が判明し、基地内に隔離された。上地市長は同日21日に外務省と厚生労働省、防衛省に赴き、「検査結果が判明する前にホテルに待機させるのはやめてほしい」と求めていた。

川笠室長は、日本政府と在日米軍が調整して、民間ホテルをROM施設として運用していたと説明し、「市との情報共有が十分でなかった」と謝罪。「米軍の活動をしっかり支えている横須賀市が問題意識を持っている」と米軍に伝え、改善につなげたと述べた。今後は検査結果が出るまで空港で待機させることも、ホテルの求めがあれば検査所長から陰性証明書の交付を受け、チェックイン時に提示させることにした。横須賀基地だけでなく、在日米軍全体がこの運用が適用されるといふ。

上地市長は「市民の理解を得ながら基地が安定的に運用されることが、日本の安全保障にとって重要だ。今回、それが覆されることを危惧していた」と語り、日米双方の対応を評価。「今後空母が帰港し、定期修理に入れば、多くのメンテナンススタッフが入国する」として、今回改善された検査の手順を広く適用することを改めて求めた。（佐々木康之）

新たに95人感染

県内では19日、新型コロナウイルスの感染者が新たに95人発表された。県内で発表された感染者数は延べ4083人（朝日新聞集計）になった。

居住地別の内訳は、川崎市27人、横浜市25人、相模原市8人、藤沢市6人、横須賀市5人、茅ヶ崎市と鎌倉市が4人、海老名市3人、伊勢原、厚木、座間、

湘南支局
〒251-0052
藤沢市藤沢575-10
☎ 0466-26-4911
fax 0466-26-4912

鎌倉 046-822-0211
鎌倉 0467-22-0129
小田原 0465-32-3822
平塚 0463-35-3246
相模原 042-752-3150
厚木 046-221-3300
国府津 045-904-9010
川崎 044-244-4306

きょうの天気
6-12時 降水確率 12-18時

0	横 浜	0
0	三 浦	0
0	海 老 名	0
0	小 田 原	20

海老名 0
厚木 0
座間 0
伊勢原 0
相模原 0
藤沢 0
横浜 0
川崎 0

横須賀市の状況

- 市内の状況（横須賀市発表）

ホーム > 横須賀市内の新型コロナウイルス感染症患者の発生状況（11月2日更新）

更新日：2020年11月2日

横須賀市内の新型コロナウイルス感染症患者の発生状況（11月2日更新）

累計感染者数など

感染者数 (累計)	入院中 (重症)	入院中 (軽症・中等症)	宿泊施設入所中 (予定含む)	自宅療養中	死亡	退院・退所 (療養期間経過を含む)
334人	1人	20人	6人	0人	12人	295人

● 横須賀市発表のほか、神奈川県発表分として市内在住者は3名です。

新規感染者 及び 退院等者の推移

2020年10月29日時点

新規感染者数 ●
感染者数累計 ■
退院等者数累計 ■



横須賀基地の状況

- 米軍発表数値の推移から

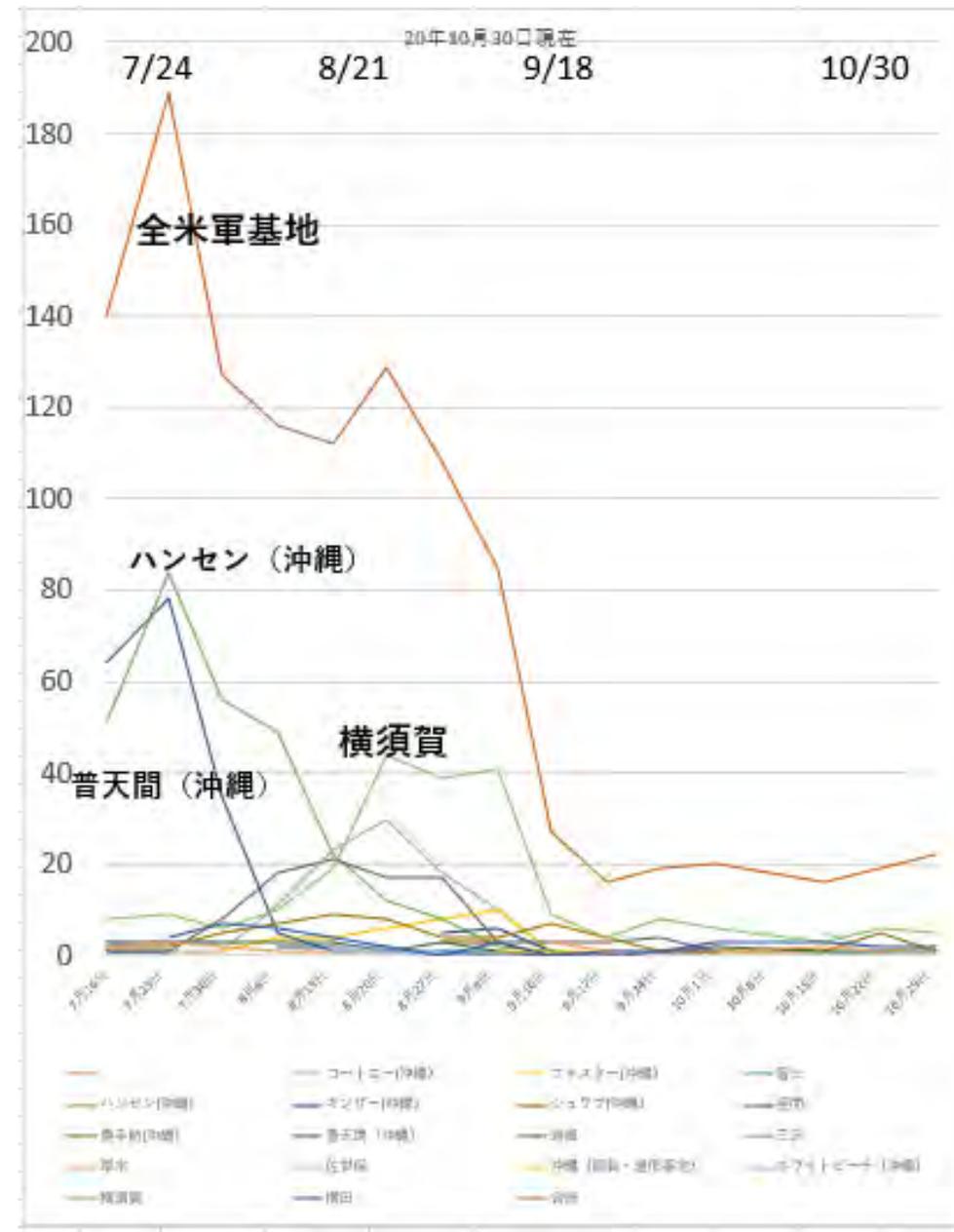
USFJ Positive COVID-19 Cases

Current as of:

30-Oct-20

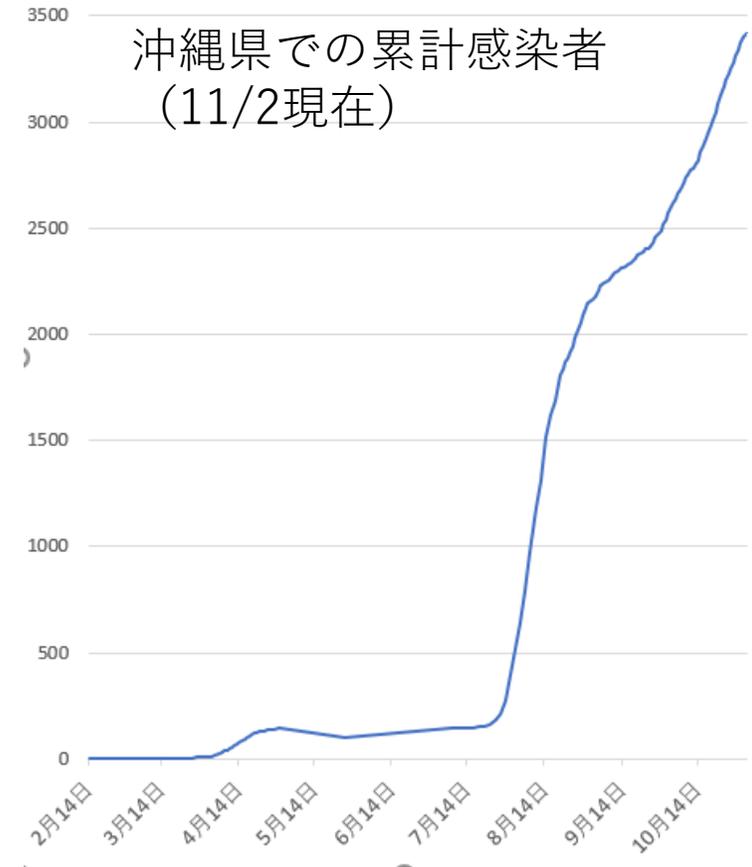
Current Positive

USFJ Installation	
Camp Foster	2
Camp Schwab	11
Camp Zama	1
Kadena AB	1
Yokosuka	5
Yokota	2
Total	22



横須賀基地の状況

- 横須賀市発表と米軍基地発表との比較



問題点 1：米軍関係感染者情報の公表問題①

3月28日までに、横須賀基地関係で5名の感染者について、米軍から情報提供。

ところが米国防総省は3月31日から各基地の感染者数を非公表としてしまった。

(おそらく、原子力空母ルーズベルトの感染問題が大きく報道されたことの影響)

4月22日付のニューヨークタイムズ及び23日付米国海軍協会のUSNIニュースは

原子力空母レーガン乗組員に16名のコロナウィルス感染者が発生と報道した。

4月22日在日米海軍フォート司令官は、フェイスブックの動画で、

『横須賀米海軍基地の管轄内では、30人よりは少ない感染者数である。』と発言した。

原子力空母レーガンは、乗組員を2週間隔離した上で、5月5日に横須賀を出港、

5月15日に帰港、5月21日に出港

6月5日に帰港、6月8日に出港

問題点 1：米軍関係感染者情報の公表問題②

7月21日に再び米軍は、各基地ごとの感染者の公表を開始した。

- ★ 感染者の属性や、感染・入国経路や、措置内容等が明らかになっていない。
- ★ 航海中の艦船乗組員や、民間の労働者は入っているのか。

8月1日、原子力空母レーガン、帰港、出港

8月22日原子力空母レーガン グアム寄港（どこにも寄港しないとの予想に反して）

8月27日に、原子力空母レーガンで複数のコロナウィルスの感染者が出て、在日米軍基地に移送された。

- ★ しかし、発生者数も、感染原因も、移送先も、その他の乗組員の状態も不明。

9月10日夕に原子力空母レーガンが横須賀基地に帰港し、翌11日朝出港

8月に感染数は急増したが、その後減少した。（別表参照）

問題点 1：米軍関係感染者情報の公表問題③

米軍関係者のコロナ感染者の発生原因

- 1、日本国内での感染者との接触による感染。
- 2、米国での感染者が、民間空港から日本に入国してくる場合
- 3、米国での感染者が、米軍基地内の空港等から日本に入国してくる場合
- 4、米軍艦船（日本・海外・航空便による感染者の乗船）内での発生感染者の空輸・帰港

問題点 2： 米軍関係者の民間空港からの入国についての問題と 日本の検疫ルール①

1、14日以内にコロナ感染による入国拒否対象国に滞在した外国人は原則入国拒否、米国人も対象。

★米軍関係者は、日米地位協定によって入国拒否できない。

2、特段の事情があって入国が認められる場合、

1) 査証の発給と、

2) 9月1日以降、入国外国人には、出国前72時間以内のPCR検査の受診による陰性証明書の取得と提出が求められる。

★米軍人、家族、軍属には適用されないと外務省はいうが、民間空港からの入国なのだから日本の検疫ルールを適用すべきではないか。

問題点 2： 米軍関係者の民間空港からの入国についての問題と 日本の検疫ルール②

3、入国者には、水際対策（検疫）が求められる。

（陽性であった場合、隔離）

1） 14日以内にコロナ感染による入国拒否対象国に滞在した者は、
民間空港での入国時、PCR検査を受けること。

検査結果が出るまで、原則空港内のスペース又は検疫所の指定する施設で待機。

2） 全ての入国者に、入国後、14日間の滞在場所の確保。

（陰性の場合）滞在場所まで、公共交通手段を使わずに移動。

これらを登録すること。

陰性でも14日間滞在場所（自宅等の個室隔離スペース）で待機して外出しないこと

問題点 2： 米軍関係者の民間空港からの入国についての問題と 日本の検疫ルール③

7月10日、海兵隊が、北谷町の民間ホテルを、入国時の隔離施設として使用していることにつき、町が抗議。使用は7月18日に使用終了。

7月12日羽田空港で検査、結果判明前に、虚偽申告して民間航空機で岩国空港に移動

★（結果が出るまで待機、公共交通機関での移動禁止に違反。）14日防衛省発表。

7月19日午前、米海軍関係者が羽田空港に入国し、PCR検査結果判明前に米軍専用車両で市内の民間ホテルに移動し、同日午後陽性と判明した。

★（結果が出るまで待機違反）

問題点 2： 米軍関係者の民間空港からの入国についての問題と 日本の検疫ルール④

7月21日 上地市長の厚生労働省、防衛省、外務省への要請

- 1) 日本の検疫ルールを遵守するよう徹底して頂きたい。
- 2) 市内の民間ホテルを検査結果判明前の待機場所として利用するのはやめてほしい。

8月19日外務省日米地位協定室長が、上地市長を訪問して、以下の点の改善を報告

- 1) 民間空港入国の米軍関係者がやむをえず施設区域外の宿泊施設を利用して移動制限措置を実施する場合、PCR検査結果判明までは空港検疫所にて待機する
- 2) 宿泊施設が要請する場合には、検疫所長から発給される陰性証明書を、チェックイン時に提示する

問題点 2： 米軍関係者の民間空港からの入国についての問題と 日本の検疫ルール⑤

12月に600人の米国からの労働者が原子炉等の定期修理作業のため横須賀に来て、市内の民間ホテルに半年滞在する。（感染者拡大のおそれ 1）

★ 1)

他の外国人と同様に、米国出国前のPCR検査による陰性証明書の提示を求めるべきである。

★ 2)

入国後のPCR検査、移動制限、14日の待機期間の日本の検疫ルールを厳格に実施させ、保健所等により確認させるべきである。

問題点 3： 米軍関係者の、 基地内空港、港湾からの入国についての問題①

★ 1、日本の検疫ルールが適用できない。

2、基地内空港、港湾からの入国について米軍は14日間の隔離措置は実施していたが

★ 入国者が症状なき場合、PCR検査をしていなかった。

7月29日に、米軍関係者が、米軍基地内に直接入国する場合にも、

1) 入国後14日間の待機期間中に、

2) PCR検査を受けることが、在日米軍と日本政府によって発表された。

★ 3、基地内空港、港湾からの入国者についても、米国出国前72時間以内のPCR検査の受診による陰性証明を求めるべきではないか。

問題点 3： 米軍関係者の、 基地内空港、港湾からの入国についての問題②

1 1月に原子力空母レーガンが長期航海から帰港し、約5000人の乗組員が横須賀と岩国基地に上陸する。またその他の艦船も海外の港湾に寄港したものが横須賀に帰港する。（感染者拡大のおそれ 2）

外国であるグアムに寄港し、複数の感染者が出たのだから、
米軍関係者の、基地内空港、港湾からの入国する場合と同様に、乗組員全員に

- ★ 1) 帰港前艦内で又は上陸後14日間の待機期間に、
PCR検査による全員陰性を確認させ
- ★ 2) 上陸後14日間の隔離措置を実施すべきである。

ご来場

ありがとうございます。

ご質問をお受けいたします。